

令和2年度第1回 日本一の健康長寿県構想南国・香南・香美地域推進協議会

<日時> 令和3年1月29日(金) 18:30~20:00

<場所> 高知県青少年センター 青少年ホール

<出席者> (南国・香南・香美地域推進協議会委員)

会長：中澤宏之、副会長：川竹康寛

委員：井坂公、疋田隆雄、岩河基行、都築英雄、公文龍也、味元議生、岡西裕公、稲本悠、松本智津、北村由佳、岡田哲夫、下川雅弘、所谷由利江、福島富雄、島本佳枝、西川明美、宮崎結城、吉村亮子、宗石こずゑ、時久朝子(欠席：宮野伊知郎、清遠由美子、今井義則、国則勝英(地域医療構想調整会議委員))

県関係者：医療政策課 課長補佐 宮地洋雄、チーフ(地域医療担当) 濱田文晴、主幹 山川哲司
事務局：(中央東福祉保健所) 所長 武田良二、保健監 田上豊資、地域包括ケア推進企画監 谷脇淑代、次長(総括) 松岡好江、次長兼健康障害課長 酒井美枝、衛生環境課長 萩野義孝、地域支援室長 尾木朝子、チーフ(地域支援担当) 窪田純子、チーフ(地域連携担当) 坂田美紀、主事 門田ひな

1 開会

挨拶(中央東福祉保健所長)

会長、副会長選任

2 報告事項(部会・団体報告)

(1) 第4期日本一の健康長寿県構想の概要

(中央東福祉保健所 次長兼健康障害課長 酒井)

(2) 災害医療対策中央東地域会議 資料1

(中央東福祉保健所 衛生環境課長 萩野)

3 説明・協議事項

(1) 高知県地域医療構想(中央区域物部川部会)に関する事項 資料2

(高知県医療政策課 主幹 山川)

(議事録は高知県医療政策課 HP 公開予定)

(2) 日本一の健康長寿県構想南国・香南・香美地域推進協議会に関する事項

ア 南国市・香南市・香美市在宅医療・介護連携推進事業での取り組みについて 資料3

(香南市高齢者介護課課長)

(会長)

はい、ありがとうございました。先ほどのご説明に対して何かご質問はございませんでしょうか。他の町村からも追加で何かご説明したいことや報告がありましたら、この場でお願いしたいと思いますのですがいかがでしょうか。

先ほどの多職種の研修会につきましては、コロナ禍の中で皆さんご心配だったと思いますが、感染対策をとりながらできるところまで開催しようという方針でやってきました。特に12月13日の阿波谷先生の市民講座につきましては、特に市民の方の参加が多く、市民の方の関心の高さが伺われたというところで、市民向けにコロナの感染対策の一般的な注意事項なども医師会として発信できたことが良かったのではないかなというふうに思いました。

来年度に向けてまた年間の研修計画を立てることになっておりますが、感染対策を実施し、どういった開催方法があるのかというのも含めて協議しながら、年間のスケジュールを立てたいというふうに考えております。この事業につきまして、皆様から追加のご発言はよろしいでしょうか。

続いて高知家お薬プロジェクトの取り組みにつきまして、高知県薬剤師会香長土支部の稲本委員から説明をお願いいたします。

イ 高知家お薬プロジェクトについて 資料4

(高知県薬剤師会香長土支部長)

(会長)

ありがとうございました。ただいまの高知家お薬プロジェクトの取り組みにつきまして質問やご意見はございませんでしょうか。これも県下での取り組みではありますが、確実にこの地域でも取り組みが進んでいることと思います。また、関係の職種につきましては引き続きご協力をお願いしたいと思います。他にご質問などはよろしいでしょうか。

それでは、本日の残りの時間は新型コロナウイルス感染症について委員の皆様と意見交換を行ってまいりたいと思います。まずは中央東福祉保健所田上保健監より、新型コロナウイルス感染症のデータ分析などについてご説明をお願いします。

ウ 新型コロナウイルス感染症について意見交換 資料5

(中央東福祉保健所 田上)

(会長)

ご説明ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の動向や、感染状況が共有できたかと思えます。その中で、早期の受診が必要だという説明もあったかと思いますが、出席の皆様の中で早期受診のために、それぞれの立場から取り組みできることや課題など、その他先ほどの説明にありましたお話について、ご意見を伺いたいと思います。まずは、どの団体からでも構いませんがご意見かがでしょうか。せっかく医療機関の先生方も参加されていますので、まず医療機関の方からご意見を伺いたいと思いますが、A委員からよろしいでしょうか。

(A委員)

私からのお願いは各部署に帰られて、是非とも感染防御に務めていただきたい。うちでも食事は向かってさせておりません。食堂もありますけども、対面ではしないようにしている。家族内感染が非常に多いと聞きますけども、家族内でも感染してない方がたくさんいます。それはお喋りをしてない方ですね。家族内で時間がずれてるとか、喋ってないとか、夫婦間でも移ってない人はたくさんいま

す。夫婦の中で、面と向かってお喋りしている方はやはり感染している機会が多いんじゃないかなと思っております。

(会長)

ありがとうございました。B委員からもお話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(B委員)

思えば、多分一例目のPCR検査をしたのが3月末だったと思いますけど、そこで初めて検査をして、そのときはかなり職員もドキドキしながら検査をしていたというような状況でしたけど、やっぱり発熱外来を作らないといけないだろうということで4月末に発熱外来を作らせていただいて、ゴールデンウィークもずっと診察をしてというような状況でした。

私どもの施設としては、検査は積極的に協力をしていこうと。入院に関しては、他病院にお願いをしないといけませんので、検査はなるべく受けようということでもずっとやってきました。12月だけでもPCRは確か400台か500弱ぐらいになっていたと思います。

当院としましては、外来検査や発熱外来で診察をしているドクター、それから検体採取をしている看護師は、実はある程度固定をしまして、たくさんの職員が関わると、逆に院内感染も含めてというところを考えたりしてますけど、現在関わってくれてるドクター、それから看護師は、なんとか当院でできることはしていけないといけないという思いで、日々必死に頑張らせていただいています。

それから、ワクチンに関してなんですけど、診療所も巻き込んで、医師会全体で、ワクチンに関してはご協力いただけるというようなお話になりつつあります。そちらは医療機関が協力してやっていけないといけないことだなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございました。ワクチンにつきましては、また田上保健監から追加で説明があるかもしれませんが、本当に医師会が全員参加のつもりで協力をしていけないのかなというふうに思っております。

他の団体の方からもご意見いただきたいんですけど、先ほどの地域包括ケアの考えが非常に重要であるということもありまして、福祉関係団体のC委員からもご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(C委員)

新型コロナウイルス感染症のこの状況の中で、特に地域として感じたのは、狭間の方ですね。制度、事業、サービスに乗っていない狭間の方の声への対応を改めて、永遠の課題かもしれませんが、そういったことで感じました。実際に感染の疑いのある方だったり、風邪気味の方への食の提供であったり、買い物に関する他機関からの相談などもありました。そこへの対応は、さてどうしたものかというところもありましたし、実際に高齢者の方などの調査であったり、普段の生活状況のアンケート調査がとれない方、声が出せない方への対応というところも、改めて感じた次第でございます。

これからなんですけれども、また行政と共に、地域福祉の活動計画として、市町村がそれぞれ計画を立てていきます。大体5年を1期として立てていくんですけども、新しい計画を何種類も立てて

いくようになります。一人も見逃さないっていうテーマで、市で計画はあるんですが、それを地域ごとの行動計画というの、これから少し立てていこうかなと。地域と一緒に、住民と一緒にっていうところで計画しております。そういうことで、声が出せない、届かない方への支援が届くような体制づくりとして、来年度からは試みも考えております。これはそれぞれの協議会でも、そういった考えもあろうかと思っておりますので、そういった動きがあるということでございます。以上です。

(会長)

ありがとうございました。ぜひ、声が出しにくい立場の方からの意見を反映していただきたいと思っております。

次に、住民代表の方にご意見をいただきたいと思っております。コロナ禍のなかでずいぶん不安な思いをして生活をされていると思いますが、先ほどの感染対策やワクチンの話を受けて、まずはA市住民代表のD委員からお言葉いただけますでしょうか。

(A市住民代表D委員)

現在、当事者交流会を高知市、南国市、香南市、嶺北、香美市と集めて50人くらいでやってまして、もうひとつ、50人くらいでA市障害者連盟をやっています。今日の会もそうですけど、現場の声をきちっと聞いて、お伺いすることによって自分たちも一歩進めると思うんです。障害者雇用されている施設や病院の、清掃などに携わっているメンバーがたくさんいるんですけど、この人達が12月になってから全然出席ができないわけです。ところが、元々忘年会はしないと決めていたんですけど、11月になったら段々したくなるわけですね。しかし現場の院内の、病院や施設で止められてるっていうことが即響いて、皆でやめようという話になったわけです。

僕がずっと思うのは、住民は常にその生の声を聞きたいのに、全く聞こえていないと。例えば何が不安かという、いくらPCR検査したいって言っても保健所がさせてくれないと。これが本当か嘘の情報かもわかりませんが、その声がきちっと聞けてなかったということが残念だと思います。

今考えるに、例えば、田上さんの今日のお話とか、A病院とかB病院のお話なんかをまとめて、なんかあったときに、すぐに前回こんなことがあったときにはこうなりましたよと。こういうことで努力を各場所がしましたよっていうような、冊子にそれこそ残してもらいたいと。それをもう一つ加えるならば、住民が主体となったような自助を掘り起こしていく作業をしないと、今ぐらい関係性が崩れた中で、それを作りあげようとするある意味で行政の仕組みがなかったら、恐らく例えば身障連盟にしても解体していきたくらうと。だからそれを逆にどう構築していくのかっていうこと、仕組み作りを行政にもぜひしてほしいということをお願いして終わります。

(会長)

貴重なメッセージをいただきました、ありがとうございました。

B市住民代表のE委員からもお言葉をいただきたいと思っております。

(B市住民代表E委員)

私は今回が初めての出席で、まだ会に馴染んでないこともありますので、適切な意見が申せるかどうか分かりませんが、私はB市のA会に所属しております、現在B市はA会に入っております。

しゃる方が 21 名ほどいて、毎月 1 回の定例会や勉強会、講習会、そういうものを行っているんですけども、やはりこのコロナの関係で、会員さんから「出席するのが恐ろしい。」というような意見も出ておまして、ここ数ヶ月は開催を中止したような状況になっております。

少し長く休みましたので、2 月には時間を短縮して開催したいというふうには思っておりますが、やはりワクチンもまだできてない、できてないっていっても、そろそろ完成して接種の段階にはなってるんですけども、病気にかかったらどうしようというような不安が皆さんの中に多いと思います。当会は高齢者が多いので、特にそういうふうを感じるのかもわかりません。だから、今日のコロナの現状とか高齢者に対する構想、そういうふうなことを少しお勉強させていただきましたので、また機会に触れて、その話も会員の中でできたらいいなというふうには考えています。以上です。

(会長)

ご意見ありがとうございます。それでは、三市からも 1 名ずつお話をいただきたいと思っておりますけれど、F 委員からよろしいでしょうか。

(F 委員)

私の課では、介護の担当もしておりますが、感染症の担当もしております、まさにワクチン接種の準備で担当が毎日、疑問がわいたり不安になったり、本当にできるのかとか、色んなことを考えながら右往左往して情報を集めたり、色々問い合わせがあったりという対応に追われているところです。その中でも、できるだけ早く体制を整えて、国は急いでやるというふうになってますけれども、そのスケジュールにできるだけ合わせてできるように、先生方のご協力もいただきたいところです、また住民の方に適切な情報提供ができるようにと今考えている所です。以上です。

(会長)

ありがとうございます。続いて、G 委員からよろしくお願いします。

(G 委員)

地域包括支援センターは、介護予防事業なんかをやってるんですけども、コロナの感染対策ということで、地域の方々が行っている体操教室であるとか、様々な介護予防教室が一時期休止ということになりました。住民の皆様からは、早く再開したいという声もありまして、再開できる形について色々検討をして、消毒や手洗い、距離の取り方とか換気の仕方について全地区を回って説明し、参加する方にも協力をしてもらいながら感染対策をして事業を続けていくことができています。これからもどういう対策をしたら続けていけるのか、開催できるのかっていうことを、正しい知識と危機感を持ってもらいながら取り組んでいく必要があるのかなっていうふうに思っています。

それと同時に、介護サービス事業所の方も医療従事者と同じで、毎日感染を起こさないようにということで、私生活でも外出とか色んなことを自粛しながら、長い期間向き合ってきているところですがごくご苦労もあるし、神経もすり減らしてやっっている中で、利用者さんに対してサービスを継続して提供しているっていうところではすごくありがたいと思っておりますし、事業者さんに対して市としてどういうことができるのか、これから考えていく必要があるのかなというふうに思っています。

(会長)

ありがとうございました。最後に H 委員からお願いします。

(H 委員)

まず始めに、先ほど医療の現場で実際に患者の方に接してコロナの対応をしていただいているということで、医療機関の委員の方々のお話を初めて聞かせていただいて、改めて感謝を申し上げるといふ気持ちになりました。市民としてはどのような対応をしていただいているというのは全く分からないわけですが、本当にご苦労が多いということが初めて分かりました。

市といたしましては、当課で介護予防として取り組んでおりまして、先ほど G 委員も言われましたように、高齢者の介護予防教室やサロンの休止を市でもお願いして、また自粛というところもお願いをしております。同様に、市民の方は再開したいという方と、心配なので参加したくないという方で二通りのご意見もありましたけれども、高齢者にとっては介護予防教室に参加することで元気になれるという方もおいでますので、市としてもこれからはできるかぎりの感染防止の対策を行い、安全を確認した上で参加ができるような形で進めていきたいと考えております。

また市としても、市民の方に対して対策本部会議等でも検討しておりまして、情報提供や周知をしていきたい。先ほどのお話にもありましたように、感染防御に務めていただくように啓発もしていきたいと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。それぞれの立場から委員さんに貴重なご意見をいただきました。最後に田上保健監から情報提供も含めて、お話を最後にいただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

(中央東福祉保健所保健監 田上)

皆様方から、本当に貴重なご意見を多々いただきまして、ありがとうございました。特に、A 委員と B 委員には、本当に日々お世話になっておりまして、もしこの 2 つの病院がなかったらどうなってたんだろうと、寒気がするほど本当に甚大なるご協力をいただいております。

現在は検査などの医療対応が中心になっており、それを強化していかなければいけないんですが、A 委員からのお話にあったように、とにかく予防をするということが何よりも大切でございます。予防となったときに、やっぱり市町村や市民の力もありますし、まさに皆が力を合わせて総力で取り組まなきゃいけないんですが、まだまだその部分が非常に弱いように思います。ここをしっかりと取り組んでいくことをぜひともお願いしたいし、その予防には先ほどの火の用心、三密っていったところがマスクでも出ますけれども、更にそれを進めて、しっかり地域ぐるみで草の根でしっかりとやっていくことがとても大事だと思います。先ほど、D 委員からのお話にもありましたが、市民の皆様としっかりと対話をしながら、皆さんと一緒に取り組むということが大事かと思っております。

コロナと合わせて、もう一つ大きな問題は偏見です。先ほど誹謗中傷の話もありました。医療従事者がこんなに頑張っているのに誹謗中傷されると。本当は、退院したときに「良かったね」と皆から拍手され、退院のお祝いをされるはずなんですけど、こっそりと入院し、退院する。それをしなきゃいけない今の日本って一体なんなんだったということですね。これは大きな問題です。この偏見との戦いは

皆が力を合わせてやらないといけませんので、特に医療従事者は、そのことで大変つらい思いをしますし、色んなことの問題がこの偏見が原因で進みにくくなっています。

現実問題として具体例をお話ししますと、ご家族に要介護の方がいらっしゃって、誰か世話をしている方が入院するとなると大変なことになります。それから犬猫をいっぱい飼っていて入院したくない、というようなことで大変な問題になる事例も多々ありました。子どもさんが感染してなくてお母さんだけが入院すると子どもの面倒は誰が見るんだ、ということになりますけど、おじいちゃんおばあちゃんに感染させたくないのを見せることができない。まさに本当は地域力でもってしっかりやらなきゃいけないんですけども、知られたくないということでガードが非常に堅く、八方塞がりになってしまうということがあります。

市町村さんをお願いしたいんですが、今度の感染症法の改正でもって、福祉的な支援をするということが、法的に位置づけられるようになります。もちろん、ご当人のご了解をいただいてということが前提になりますけれども、市町村並びに福祉関係の皆様、そういうお困りの方々をご家族では無理な部分を地域で支えていくことがとても大事になりますので、そのことも合わせてお願いをしたいと思います。

誹謗中傷であったり色んな偏見に対する最大のワクチンはなにか。これは正しい知識をしっかりと伝えていくということなんですが、それがまだまだできていません。恐怖と無知のために偏見に繋がっていきます。私どもも頑張っているんですけども、先ほど言ったように火消し役で精一杯でございます。皆様方にご尽力いただき、しっかりとこの部分をやっていかないといけないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますが、南海地震への備えということで、これまでは前方展開型総力戦を、とずっと言ってきました。最大の対応は、総力でやっていかなければいけないということで取り組んでるんですが、今のこのコロナの危機も同じです。総力でやらなければいけないんですが、かなり局部的なところだけが動いて、総力になってないということが大きな課題かと思ひます。現在、医療対応が主になっているんですけども、医療対応だけでなく、地域包括ケア、福祉対応や市民との共同であったり、そういうものが上手く繋がらなければいけないんですが、それができていないために医療が中心になっているということも大きな課題です。

平時にこの場で議論してきた医療及び地域包括ケアの話と、コロナ対応で今日の前でやらなきゃいけないことは、同じ問題が根っこにあるということです。コロナを通じて、皆がしっかりと繋がって立ち向かっていくということができれば、きっと平時の地域包括ケア、地域医療の推進のためにも役に立つのではないかなというふうに思ひます。そういう観点で皆様方、今後ともご協力をお願いしたいと思ひます。長くなりまして申し訳ございません。以上御礼も含めて、お話しさせていただきました。ありがとうございました。

4 閉会